

行歯会だより

第 202 号

(行歯会＝全国行政歯科技術職連絡会)

令和7年 2 月 発刊



1 第83回日本公衆衛生学会に参加して(P.2)

静岡県 静岡市口腔保健支援センター
所長 小畑 充彦

2 第83回日本公衆衛生学会自由集会参加報告(P.4)

北海道 札幌市保健福祉局ウェルネス推進部ウェルネス推進課
技術職員 菅原 ひとみ

3 第32回全国歯科保健推進研修会及び第45回全国歯科保健大会開催報告(P.6)

熊本県 健康福祉部健康局健康づくり推進課
参事 井上 秀代

4 「食育における歯科口腔保健の推進」現場レポート

自然に健康になれる食環境づくり「くらしき3ベジプロジェクト」の紹介(P.7)

岡山県 倉敷市保健所健康づくり課
主幹 家守 己恵子

「歯っとサイト(歯科口腔保健の情報提供サイト)」掲載コンテンツ募集!

「歯っとサイト」<https://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html> では、掲載コンテンツを募集しています。
掲載を希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている編集担当宛に御連絡ください。

行歯会だより読者コーナー



行歯会や行歯会だよりへのご感想、ご意見をお聞かせください。
投稿者に確認の上、行歯会だよりに掲載させていただく場合もあります。
<https://forms.gle/q4WYyFL2Tg2ya2oI9>

1. 第83回日本公衆衛生学会に参加して

静岡県 静岡市健康づくり推進課 参事
兼 口腔保健支援センター 所長
兼 障害者歯科保健センター 所長 小畑 充彦

行歯会会員の皆さま、ご無沙汰しております。静岡市口腔保健支援センターの小畑です。

令和6年10月29日から31日にかけて札幌市にて開催された第83回日本公衆衛生学会に参加しましたので、思うところを書き留めます。



茶栽培発祥の地とされる静岡市葵区足久保(あしくぼ)での茶摘みの様子

1 久しぶりの北海道

学生時代の7年間で過ごしましたので、札幌は第2の故郷です。卒後すぐに地元関西に戻ったものの、公私でちょくちょく渡道していましたが、コロナ禍の影響もあり、6年半ぶりにその地を踏みしました。地元の人によるとすでに一度雪は降ったとのことでしたが、滞在中は比較的暖かく、助かりました(静岡はとても温暖で雪がちらつくだけで地元のニュースになるほどです)。

延期されたものの、北海道新幹線札幌延伸の影響は大きいようで、札幌の街はマンションや商業施設の建設ラッシュとなっており、少々驚きました。

2 久しぶりの学会発表

私自身、昨年3月まで2度目の大学院生活を送っておりました。令和3年4月に静岡市葵区に開学した静岡社会健康医学大学院大学(SSPH)に職場から派遣という形で2年間通常勤務をしつつ、金曜日の午後と土曜日を大学院で過ごしました。前々職の秋田県庁に勤務していたころから抱いていた「公衆衛生学を系統立てて学びたい」という思いがひょんなことから実現したのですが、2年間の研究成果を発表するため、今回初めて日本公衆衛生学会に参加することとなりました。研究タイトルは「新型コロナウイルスワクチン接種行動に関する探索:静岡市が保有するデータの利活用」で、歯科保健とはまったく関係ありませんが、行政機関が短時間で大量に収集したデータを大学(外部の研究機関)に安全に持ち出し、その集計・分析を行うことで、今後の政策に反映させることを目的として設定しました。ワクチン接種開始当初から令和5年5月7日までに静岡市民を対象として接種された約210万回の接種について、感染者数と接種回数をリンクさせた集計や市が準備した集団接種がいつ、どの会場で、どのような人々に接種されたのか等を分析しました。修了後の現在も SSPH の客員助教として在籍しています。

3 公衆衛生学会の会場にて

業務都合で3日間のうち、後半の1日半の参加となりましたが、領域としては医療、健康、環境など、発表者は学術機関、企業、行政機関など、いろいろな意味で幅広く、ポスター会場の規模はこれまでに見たことのないような広さでかつ午前・午後で入れ替えが行われていました(数年前までは図鑑のような厚さ数センチの紙の抄録が送られてきていたのをご記憶の方も多いかと思いますが、今回の学会では抄録はアプリにて配信されていました)。旧知の研究者のみならず、リモートでしかやり取りのなかった研究者にも対面でお目にかかることができ、発表内容に関するディスカッションや近況報告等を行いました。学会への会場参加のよさを改めて認識する機会となりました。2日目の夜には自由集会「公衆衛生における歯科保健を考える ～新しい歯科保健医療業務指針にもとづく歯・口腔の健康づくりのあり方～」が開催されましたが、こちらは次項にてご紹介がありますので、本稿では割愛します。

4 終わりに

今年の日本公衆衛生学会は10月29日(水)から31日(金)に尾島俊之浜松医科大学健康社会医学講座教授を学会長に、田原康玄 SSPH 教授を実行委員長に私の地元静岡市で開催されます。東京、名古屋からひかり号に乗って1時間、美しい富士山や徳川家康が晩年を過ごした駿府城跡などの歴史的遺産、安倍川の豊富な伏流水を用いた水風呂を有するサウナ(聖地もあります)、そして何よりお茶や静岡おでん、駿河湾の魚など美味しいものを用意して、皆さまのお越しをお待ちしております。

第84回日本公衆衛生学会ウェブサイト: <https://plaza.umin.ac.jp/~jsph84/>



① 到着後、次期学会ブースで田原実行委員長と



② 秋田県庁歴代勤務歯科医師との再会

写真右より着任順に

田村 光平先生（東京都 医療連携・歯科担当課）

大島 克郎先生（日本歯科大学 東京短期大学）

筆者

田所 大典先生（仙台市 健康政策課）



③ 静岡市清水区（旧清水市）は冷凍マグロの水揚げ日本一を誇る



④ しぞーか割り（焼酎の緑茶割り）



⑤ しらす三色丼



⑥ 静岡市役所静岡庁舎から見る富士山

2. 第83回日本公衆衛生学会自由集会参加報告

北海道 札幌市保健福祉局ウェルネス推進部ウェルネス推進課
技術職員 菅原 ひとみ

1 はじめに

平素より皆様におかれましては大変有意義な情報の共有をいただきましてありがとうございます。

この度、令和6年10月30日（水）に開催されました第83回日本公衆衛生学会自由集会17「公衆衛生における歯科保健を考える—新しい歯科保健医療業務指針にもとづく歯・口腔の健康づくりのあり方—」に参加いたしましたので報告いたします。



2 各話題提供について

(1) 地方公共団体における歯科保健医療業務指針が目指す歯・口腔の健康づくり

（厚生労働省医政局歯科保健課歯科口腔保健推進室 室長補佐 諸星 律子 氏）

歯科保健医療業務指針策定の経緯について触れるとともに、具体的な各項目についての説明がありました。

諸星室長補佐の講演で心に残った言葉は、「食べきれないほどのメニューを準備しました。地域課題の解決のために、各自治体オリジナルの取組やレシピで、地域歯科保健医療を個性豊かに召し上がって下さい」との言葉です。難しい課題を美味しく調理し、咀嚼し、地域に根付いた歯と口腔の健康づくりの取組を推進していきたいと感じた講演でした。

(2) 歯科医師減・人口減を見据えた本道における歯科保健医療体制の構築に向けた取組

（北海道保健福祉部健康安全局地域保健課 医療参事 本田 和枝 氏）

北海道の歯科保健医療体制の地域格差について示され、札幌市及び旭川市以外における歯科保健医療職の減少や、若年歯科衛生士の離職といった課題、大学と連携した取組の検討などについて説明がありました。

(3) 新業務指針が求める市町村におけるオーラルフレイル対策

（札幌市保健福祉局歯科保健担当部長 秋野 憲一 氏）

札幌市の「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業」におけるオーラルフレイル対策について紹介され、今までバラバラで取り組んでいた保健事業と介護事業とが連携することで、支援不可能であった対象者のアウトリーチに取り組むことができる事業展開についての情報提供がありました。

(4) 医療的ケア児に対する口腔衛生管理の現状と地域歯科保健への期待

（医療法人稲生会 生涯医療クリニックさっぽろ 歯科科長 高井 理人 氏）

医療的ケア児は全国に約2万人存在し、この10年で約2倍に増加していること、通院、移動が困難であることから、保護者の約半数が、歯科診療を受けたいが受診が難しいと考えているとの報告がありました。

また、医療的ケア児のライフステージと歯科との関わりをみると、1歳6か月児健診や3歳児健診等の乳幼児健診を受けていない児が多数であるとのことでした。

当職は札幌市全区で実施する幼児歯科健康診査に従事していた経験があり、令和6年度からは現職で、障がい者（児）歯科健診事業を担当しております。現行の障がい者（児）歯科健診事業は施設通所・入所者を対象とした事業となっていますが、将来的には在宅の医療的ケア児も利用できる制度の構築を目指していきたいと考えました。

3 札幌市の歯科保健と、自由集会参加から得た想い

ここから、自由集会の報告からは少し脱線いたしますが、当職の所属するR6年度に新設された札幌市保健福祉局ウェルネス推進部のご紹介と、当職が普段携わっている業務やこの度の自由集会で得た刺激について、お話をさせていただきます。

(1) 札幌市保健福祉局ウェルネス推進部ウェルネス推進課?!

本市ではまちづくりの礎となる「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」を策定し、目指すべき都市像の実現と、まちづくりの基本目標の達成に向けて様々な戦略を構築しています。

各々の取組の基本概念を「ユニバーサル(共生)」「ウェルネス(健康)」「スマート(快適・先端)」とし、各分野にまたがる課題を整理、横断的に取り組む施策を定めることとしています。

重要概念である「ウェルネス」を推進すべく新設されたのが、当職の所属するウェルネス推進部です。当職オリジナルの表現で簡易にまとめますと「全ての市民が輝き、豊かに暮らすために、健康づくり部門は当部がマルっと担います!」という部署となっております。



(2) 保健所じゃない部署で、強烈に歯科保健を推進中

地方公共団体における歯科保健医療業務指針では「保健所における歯科保健医療業務について」が示されており、保健所設置市においては市町村支援や広域調整を除く全ての業務と同時に「市町村における歯科保健業務」に掲げる全ての業務に努めることとしています。

これまでの札幌市の歯科保健事業は、業務指針に掲げられる①妊娠期における事業、②乳幼児期における歯科保健事業、③学齢期における歯科保健事業を主に展開してきましたが、新設のウェルネス推進部では本市歯科保健の中核を担い、企画・連携・調整等の全て歯科保健業務に取り組んでいます。

令和6年度の大きな動きとしては「小学校でのフッ化物洗口モデル事業の開始」「幼稚園保育所でのフッ化物洗口支援事業の拡大」「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業でのオーラルフレイルハイリスク対策事業の開始」「障がい者(児)歯科健診事業の委託実施」・・・など、役職者を含む歯科保健職4名と事務職、他専門職などとの多職種連携による事業展開を推進しています。

(3) フレックススタイルの歯科保健担当係

当職のモットーは、「完璧を求めず60点を狙っていこう。精度は後付けでOK。止まらず続けられればいずれ形になる」です。当課は自由な発想を持ちながらも、既存の定型事業を複数進め、新規事業の企画・調整、経営層の意向を踏まえた事業展開、こだわり過ぎない柔軟な発想力が必要な業務環境です。その反面、ある程度の執着心と熱意も求められる職場となっています。

(4) まとめと感謝

新規事業が多い業務環境ですが、トライアンドエラーを楽しみつつ、札幌市の歯科保健文化の醸成を目指して業務を進めています。札幌市の文化を作る仕事ができるなんて、とても素敵な職業につけたものと感謝する日々です。

この度の自由集会では、少しだけですが実施のお手伝い役の仲間に入れていただき、全国の歯科保健職の皆さんと繋がり、お声かけいただき、知識や勇気をいただき大変刺激を受けた自由集会でした。どの市町村も、少数精鋭の歯科保健業務環境かと思いますが、行工会や学会参加などを通じ、繋がり育てる歯科保健を目指したいと思います。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

※ イラスト画像は、本市で公式活用されている生成 AI「Copilot」を使って作成いたしました。思いの他素敵に仕上がったので添付画像として活用させていただきます。全て AI による生成物であり、決して本人の似顔絵や、実際の札幌市の画像ではありません。



3. 第32回全国歯科保健推進研修会及び第45回全国歯科保健大会開催報告

熊本県 健康福祉部健康局健康づくり推進課
参事 井上 秀代

令和6年11月1日(金)に「第32回全国歯科保健推進研修会」を、11月2日(土)に「第45回全国歯科保健大会」を開催しましたので、御報告させていただきます。

まず、研修会では、平成9年以来、27年ぶりに全面改訂となりました「地方公共団体における歯科保健医療業務指針」について、以下の御三方の講師に国・都道府県・市町村それぞれのお立場から御講演いただきました。



講演1 「地方公共団体における歯科保健医療業務指針について」
厚生労働省医政局歯科保健課 課長 小嶺 祐子 氏

講演2 「新潟県における歯科保健医療対策について」
新潟県福祉保健部健康づくり支援課 参事 清田 義和 氏

講演3 「柏市における歯科保健医療業務について」
千葉県柏市健康医療部 理事 吉田 みどり 氏

講演1では、本指針改訂の背景や趣旨をはじめ、新たに追加となった業務内容について、歯科保健医療を取り巻く状況の関連データを用いて御講演いただきました。

講演2では、新潟県の歯科保健医療対策の概要をはじめ、本指針の科学的根拠に基づく歯科保健対策に位置付けられているフッ化物洗口事業の取組を通して、関係組織による連携体制の構築及び市町村支援内容について、フッ化物洗口実施開始から50余年の実績を踏まえ都道府県の役割を御講演いただきました。

講演3では、柏市の歯科保健医療対策の概要をはじめ、学校歯科保健及びフレイル予防の事業を通じて、PDCAサイクルに沿った事業展開やデータ分析による地域課題の把握について御紹介いただくとともに、事業の目的や根拠を明確にすることの重要性について御講演いただきました。

御講演いただきました講師の皆様にご感謝申し上げます。

続いて、大会では、「～火の国・水の国くまもとから～人生100年時代おいしく食べて豊かな人生」をメインテーマとし、全身の健康の維持、ひいては将来における健康長寿の延伸に歯科口腔保健の充実が重要であることを多方面に向けて広く発信するとともに、歯科保健事業の推進及び地域又は職域における公衆衛生の向上に功績があった個人及び団体の表彰を行いました。

特別講演では、四川料理の第一人者である陳 健民氏の愛弟子の一人として著名な公益社団法人日本中国料理協会 顧問の斉藤 隆氏より「医食同源 楽しい食生活」と題し、数多く訪れた中国の食文化や健康を保つ食事について料理人の知識と歯科口腔の大切さを絡めて御講演いただきました。

また、斉藤 隆氏、公益社団法人日本歯科医師会 会長 高橋 英登氏、一般社団法人熊本県歯科医師会 会長 伊藤 明彦氏の御三方によるシンポジウムでは、「おいしく食べて豊かな人生」をテーマに、「食べることで歯と口腔の健康は深い関係があり、味や風味、食感を楽しみながらおいしく食べることは人生を豊かにする。そのためには、口腔衛生と口腔機能の健康管理が必要であること」を各種データを用いて、討論がなされました。

研修会及び大会に多数の方に御参加いただき、ありがとうございました。

4. 「食育における歯科口腔保健の推進」現場レポート

自然に健康になれる食環境づくり「くらしき3ベジプロジェクト」の紹介

岡山県 倉敷市保健所健康づくり課

主幹 家守 己恵子

1 はじめに

行歯会の皆様方には平素より大変お世話になっており、いつも有意義な情報をありがとうございます。

倉敷市では、国民健康保険特定健康診査の受診結果において「糖尿病・高血圧症」に関連する数値が全国や岡山県に比べて高い状況にあります。そこで、糖尿病・高血圧症予防に向け、国の健康寿命延伸プランに基づき、令和3年度より、自然に健康になれる食環境づくり「くらしき3ベジプロジェクト」を開始しています。中でも現在、若い世代・健康に関心の向きにくい層へのアプローチを重視し実施している産学官連携事業について、紹介させていただきます。



2 倉敷市の紹介

岡山県南部に位置する人口約47.4万人の市です(令和6年9月末日時点)。

平成13年に保健所政令市へ移行し、倉敷市保健所が設置されました。

保健所健康づくり課食育推進係には、歯科衛生士2名、管理栄養士9名が配置されており、連携して「くらしき3ベジプロジェクト」を推進しています。



3 「くらしき3ベジプロジェクト」

【3つの野菜の食べ方】

- ① ベジわん：一口目に食べる
- ② ベジもぐ：よく噛んで食べる
時間をかけてゆっくり食べる
- ③ ベジもり：1日350g以上食べる



「くらしき3ベジプロジェクト」の3つの野菜の食べ方

のひとつに「ベジもぐ～よく噛んで食べる・時間をかけてゆっくり食べる～」を位置づけ、肥満予防からの糖尿病予防に加え、歯周病の重症化予防、噛むことから口腔機能の発達・維持・向上についての啓発を行っています。

4 産学官連携事業「イオン de くら★けん」の事業背景

平成28年にイオン倉敷店、川崎医療福祉大学臨床栄養学科との産学官連携事業「食育キャンペーン」(2回/年)として開始し、三者で企画から評価までを行いながら継続してきたことで、三者の理解が深まり、令和5年度より健康づくりに関する市関係部署や大学の他学科、イオン薬局なども加わり啓発内容の充実を図るとともに、回数も隔月年6回に増やし、名称も「イオン de くら★けん」と改めました。

そして、くらしき健康プランに基づき、三者が本事業の目指すところや役割について共通認識を図り、若い世代や健康に関心の向きにくい人への働きかけを意識した上で、買い物ついでに気軽に楽しく参加できるよう測定体験等を中心に動機付けを行いながら、自身の健康について振り返る機会としています。

また、繰り返し参加しようと思える仕掛けづくりも行い、「イオンへ来ると健康になれる、また健康への関心が高まる」といった健康になれる環境づくりにつなげています。

5 産学官連携事業「イオン de くら★けん」～テーマ:COME 噛む体験★Let's 3ベジ～

歯・口の健康づくりの啓発は、年3回実施しており、中でも6月は、「歯と口の健康週間」「食育月間」にちなみ「COME 噛む体験★Let's 3ベジ」をテーマに、各コーナーに一体感を持たせ実施しています。

令和6年6月は、次のような内容で実施し、延べ1,400人を超える方々へ啓発できました。

① 倉敷市保健所健康づくり課(歯科衛生士)：口腔水分測定、歯科相談

口腔水分測定を通じて、口腔の湿潤度を知る機会を提供し、よく噛んで食べることや唾液の重要性等について啓発

する。また、歯周病が糖尿病等全身の健康に影響を及ぼすことがあるため、健康な歯・口を維持するためのケア方法について啓発するとともに、かかりつけ歯科医院をもち、定期的に歯科健診を受診することを促す。

② イオン倉敷店イオン薬局（薬剤師）：咀嚼力測定

咀嚼チェックガムを使用し自身の咀嚼力を知る機会を提供し、よく噛んで時間をかけてゆっくり食べることを通じた生活習慣病予防、口の機能の発達・維持・向上することの重要性について啓発を行う。

③ 倉敷市保健所健康づくり課（管理栄養士）：くらしき3ベジプロジェクトの啓発、「くらしき健幸プラン（特に歯・口分野、食育分野）」に関する啓発

市民参加型のクイズ形式で、歯・口分野と食育分野の内容や3ベジプロジェクトの周知を行う。

④ 川崎医療福祉大学臨床栄養学科（教員・学生）：野菜料理のレシピの提案、推定野菜摂取量測定（ベジチェック）、食育 SAT システムの実施

大学生が作成したよく噛むことを意識した野菜料理のレシピの提案や推定野菜摂取量を測定し見える化するなどし、野菜をよく噛んで食べることへの動機づけを行う。

⑤ 倉敷市総合福祉事業団（管理栄養士・保健師・運動指導士）：全身反応測定、握力測定、血圧測定

噛むことで、筋力アップにつながったり、集中力や判断力が高まったりするといわれていることなどを踏まえ、噛むことや運動することの大切さについて啓発を行う。

6 まとめ

事業に参加する多職種（薬剤師、歯科衛生士、管理栄養士、運動指導士等）が課題や目的の共通認識を図り連携することで、統一感を持って多角的な視点から啓発を行うことができ、参加者へテーマをより印象づけられたのではないかと思います。また、この事業は、他職種や関係者に歯科保健について理解を得る場としても機能しています。さらに、学生の柔軟な発想力を活かした啓発や情報発信により、若い世代から若い世代への拡がりも期待できると考えています。何よりも、商業地と連携することで、若い世代や健康に関心の向きにくい人へアプローチしやすい環境が得られるとともに、ナッジ理論を活用（短時間で簡単にできる測定、買い物ついで、つられて参加、無料で学べる、等）することで、若い世代や健康に関心の向きにくい人へ働きかけやすい事業となっており、このような機会を定期的につくることの意義を感じています。

しかし、参加者アンケートの結果を見ると、8割以上が「すでに健康づくりに関心がある」層であったため、今後、働きかけを強化したい健康に関心が向きにくい層へ向け、参加を促すためのイベントの見せ方や立ち寄りたくなる動機づけなどについて、更に検討する必要があると考えています。

地産地消簡単レシピ ～食育を考えつつ美味しいモノを～

岡山県初！ ごぼうでは全国初！

「^{つらしま}連島ごぼう」ブランドが、地理的表示（GI）保護制度※に平成28年12月に登録されました。

※地理的表示（GI:Geographical Indication）保護制度

品質の特性が地域と結びついている製品について、その名称を国が知的財産として保護する制度



^{つらしま}～連島ごぼうの特徴～

高梁川支流の廃川地跡の砂地で栽培される連島ごぼうは、ミネラル豊富で水はけの良い土地と生産者の努力が相まって、通常のごぼうよりも肌が白く、アクが少ないのが特徴。

噛み噛みメニューの紹介!
よく噛んで美味しく♪

つらじま 連島ごぼう井



* 材料(4人分) *

米……………	2合
ごぼう…………	120g
たまねぎ………	100g
にんじん………	40g
しいたけ………	4枚
鶏もも肉………	100g
みつば…………	4本
油……………	小さじ2
だし汁………	1カップ
しょうゆ………	大さじ2
砂糖……………	小さじ1
みりん………	大さじ1+1/2
酒……………	大さじ1+1/2
にんにく………	1かけ
しょうが………	14g(1かけ)
ごま……………	小さじ1

A

* 作り方 *

- 1 米を炊飯する。
- 2 ごぼうはさがき、たまねぎは薄切り、にんじんはせん切り、しいたけは石づきを除き薄切りにする。
みつばは3cm 長さに切る。
にんにくはすりおろし、しょうがはせん切りにする。
- 3 鶏肉は皮を除いてそぎ切りにする。
熱したフライパンに油をひいて鶏肉を炒め、焼色がついたら、ごぼう、たまねぎ、にんじん、しいたけを入れ、しんなりするまで炒める。
- 4 Aを入れ、野菜が軟らかくなるまで弱火で煮る。
火を止める直前にみつばを入れ、ひと混ぜする。
- 5 炊き上がったごはんを器に盛り、4をかけ、ゴマをふる。

※倉敷市の地場産物を使用したレシピはこちらをご覧ください→[倉敷市食育ポータル「倉敷の食材を使おう！」](#)

♪ 編集後記 ♪

毎年この時期になると、長引く咳に悩まされています。まともに話せないわ、頭は痛くなるわ、周囲の目も痛いわと困ったものなのですが、一番困るのが、咳がひどくなるのでお酒が飲めないこと…。はちみつ入りののど飴をなめている間だけ比較的調子がいい気がしますが、むし歯と血糖値も気になります。いい咳対策をご存じでしたら教えてください。(T)

2月4～6日に、「伊予路に春を呼ぶ」といわれている椿まつり(通称椿さん:旧暦正月8日を含む3日間)が開催されました。この時期が一番寒いと言われているのですが、毎年この時期に雪が降ります。今年も雪、しかも大雪でした!! 皆さんの地域は大丈夫だったでしょうか。(S)

